

令和7年度 正気小学校 学校評価（関係者評価）

1 学校教育目標

豊かな心を持ち、進んで学び、たくましく生きる児童の育成

2 自己評價結果

- (1) 「割合」の欄は、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合
(2) 「取組状況の目安」 80%以上：A 60%～80%未満：B 60%未満：C

No.	項 目	評価者	割合	取組状況	改善の方策	学校関係者評価					
						自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ				
創意ある学校経営	地域団体や企業、SCSやボランティアとの連携を図っている。	児童	80%	B	R6に比べて地域との連携や情報発信への評価が児童・保護者・教職員のいずれにおいても向上した一方、三者間の認識差を縮めるため、活動の見える化と分かりやすい情報提供が求められる。	A	A				
		保護者	90%	A							
		教職員	100%	A							
	情報発信(お便りやメール配信)に努めている。	児童	89%	A							
		保護者	98%	A							
		教職員	100%	A							
委員会 校長 教員 運営 の営 意 談 見会	【学校経営・情報発信について】 ・学校評価の改善が見られる点は、今年度の学校運営の成果であり、深く感謝したい。今後も継続した取り組みを期待する。 ・学校側が情報発信に真摯に取り組んでいる姿勢が伺える。特に学校だよりは内容が充実しており、非常に読みやすい。 ・メールによる情報発信は、後から内容を見返すことができるため、有効に活用されている。今後もこれまで同様、情報の「発信」と「収集」の両面を重視した運用を継続していただきたい。 ・地域住民に向けて回覧板で情報を発信している点に、学校側の努力を感じる。今後、回覧板に工夫を凝らすことで、さらなる地域交流の活性化につながることを期待している。 【保護者・地域との連携について】 ・保護者からの評価も良好であり、着実に成果が表れている。今後、学校と保護者が直接触れ合う接点がさらに増えいくことが望ましい。 ・行事等に協力する保護者が増えていることは喜ばしい。保護者が楽しみながら参加できる機会が、今後さらに広がっていくことを願っている。 ・PTA組織の有無にかかわらず、保護者や地域の協力体制が整えば、質の高い学校運営が可能であることを実感した。 ・地域のボランティア活動については、その内容をより「見える化」することで、さらなる理解と協力が得られるのではないかと。										
	人生を主体的に切り拓くための学びの確立	ICT機器を活用した授業や家庭学習を行っている。	児童	77%	B	R6と比較すると、R7では基礎学力の定着支援や思考・表現活動、キャリアパスポートを活用したキャリア教育、家庭学習支援の面で児童・保護者・教職員の評価が総じて向上し、授業改善の成果が外部からも認められ始めている。 一方、ICT活用については教職員の手応えが高まった反面、児童・保護者の評価はR6より低下しており、活用場面の意義や効果が十分に伝わっていない可能性がある。 また異文化理解やコミュニケーション能力の育成に関する項目では、児童・保護者の実感がまだ高まっていないが、本年度よりJRCに加入しており、2月にはスリランカの方を招いて4～6年生を対象とした授業を計画している。こうした取組を通して、活動内容や成果を児童・家庭へ可視化し、学びの意義を共有することで三者の認識差は縮まっていくと考えられる。	A	A			
			保護者	63%	B						
			教職員	94%	A						
		子供が基礎学力を身に付けられるよう支援している。	児童	90%	A						
			保護者	81%	A						
			教職員	100%	A						
		授業で、子供は自分の考えを発表し、友達と考えと意見交換できるよう指導している。	児童	89%	A						
			保護者	89%	A						
			教職員	94%	A						
校外学習やキャリアパスポート、「夢の教室」などを教育活動の中で効果的に活用できている。		児童	86%	A							
		保護者	91%	A							
		教職員	100%	A							
外国語科や外国語活動を通して、自国と異国の文化への理解を深め、コミュニケーション能力を養う指導をしている。		児童	73%	B							
		保護者	68%	B							
		教職員	100%	A							
家庭学習や読書習慣の定着を支援している。		児童	83%	A							
		保護者	74%	B							
		教職員	94%	A							
委員会 校長 教員 運営 の営 意 談 見会		【学習指導・ICTの活用・外国語活動等について】 ・1人1台端末（ICT）の活用について、家庭持ち出しの際に、翌日の授業でゲーム感覚の小テストを行うなどの工夫があれば、児童の家庭学習への意欲がより高まるのではないかと。 ・学力向上に向けた諸施策への取り組みを評価したい。特に担任教師による外国語指導については、現場の負担も大きいと推察されるため、行政とのさらなる連携による環境改善を強く望む。 ・外部講師（ネイティブスピーカー等）を招いた異文化コミュニケーション教育は、非常に有意義であり、今後も継続していただきたい。 ・ICT活用や外国語教育の充実、本校のみならず東金市全体の課題でもある。教育の質を担保するためにも、教育予算の拡充が必要であると感じている。 【児童の生活習慣・家庭との連携について】 ・読書習慣の定着は、情報端末の普及等により家庭でも課題となっている。学校と家庭が連携し、根気強く取り組んでいく必要がある。 ・教職員の定員に限られる中、各授業において様々な工夫を凝らしている姿勢に敬意を表したい。 ・児童への指導のみならず、家庭における教育環境を整えるための「保護者への支援や情報提供」についても、学校の役割として期待したい。									

